

日本人口学会関西地域部会
2019年度研究会実施計画

日本人口学会関西地域部会
川口 洋・中澤 港・平井晶子

1. 活動計画 (2018-2020)

今期の研究課題として、(1) 人口学からみた過去・現在・未来、(2) 隣接分野との対話を掲げたい。

人口学の役割は、過去・現在の人口変動を総合的にとらえ、人口変動が生じた要因を時間軸と空間軸のなかに位置づけ、将来予測につなげることとみられる。そのためには、人口変動の要因となる自然環境、社会環境に注目して、人口学に隣接する専門分野との対話が不可欠とみられる。

上記の研究課題を達成するために、毎年1回程度の研究会を企画運営する。研究会の会告や報告要旨などを日本人口学会HPや「人口学研究」などに掲載して広報に努める。研究会では、会員・非会員を問わず、幅広い年齢層の研究者から御報告いただき、十分な討論時間を取って議論を深める。参加者が30人を超え、会員の増加に繋がるよう、人口学の活性化に努めたい。

2. 2019年度研究会の日時：2020年3月14日(土) 10:00~17:30

3. 会場：神戸大学文学部 B135 教室

4. 会場のPC環境：スクリーン、PC (windows)、パワーポイント使用できます。

5. 会場校の御担当：平井晶子

6. テーマ：近代移行期の人口移動 -人口移動からみた過去・現在-

7. 共催：科研費「300年から読み解く日本の家族/人口論」の構築へむけた実証研究(2017-2019、代表：平井晶子)、麗澤大学・歴史人口学セミナー

8. 趣旨：研究課題(1)に掲げた課題の理解を深めるために、18-19世紀の国内人口移動に関する研究成果を報告していただき、人口移動研究の専門家を討論者として御登壇いただくことによって、過去から現在を見通す人口移動研究の視点と研究方法について討論したい。

9. プログラム

開会の挨拶・趣旨説明 川口 洋 (帝塚山大学)

第1報告、報告30分、討論20分、司会：村越一哲 (会員：駿河台大学)

幕末の大都市周辺地域における人口移動の分析-丹波国桑田郡馬路村を事例として-
(長島雄毅・愛知工業大学)

第2報告、司会：村越一哲 (駿河台大学)

幕末期の京都における人口移動 (Mary Louise Nagata, Francis Marion University)

昼休み 12:00~13:00

第3報告、司会：中澤 港 (神戸大学)

19世紀の越後国からの出稼ぎ -越後漁村旧角田浜村の事例分析- (張婷婷・東北大学)

第4報告、司会：中澤 港 (神戸大学)

近世東北における人口移動の空間的な広がり -二本松藩町村の比較を通して-
(長岡 篤・麗澤大学)

第5報告、司会：平井晶子 (神戸大学)

近代期の都市村落間人口移動をとらえる視点 (鈴木 允・横浜国立大学)

総合討論：コメント各10分、討論60分、司会：平井晶子 (神戸大学)

指定討論者：高橋眞一 (新潟産業大学)、丸山洋平 (札幌市立大学)

閉会の挨拶 川口 洋 (帝塚山大学)

10. 配布資料 資料を配布したい先生は、25部持参してください。

11. 資料の事前配布 報告者は、配布資料、パワーポイントのスライドをあらかじめ、討論者に送ってください。

12. 懇親会会場：未定

13. 報告要旨 報告者の皆様は、1000字程度、2020年4月10日までに川口宛にwordで提出してください。

以上。